

# 【ねがいましては】

第88号

平成8年9月26日

共和珠算学習塾

「自分に勝つ」

今の昔も、私たちの生活は数々の助け合いの上に成り立っています。しかし、核家族化がすすむ中で、そのスタイルも変化が感じられる気がいたします。

一人ひとりがより忙しくなっていて、「家」にいる時間が少なくなっているのではないかと思います。「家」に早く帰りたい！お母さんが待ってる、お兄ちゃんがもう帰ってきているかもしれない。おじいちゃんおばあちゃんはきつというし。「ただいまー」の声に「おかえりー」の返事が聞こえる。一瞬にしてこころは温かさを増します。「こころ」に栄養が注がれる瞬間でもあります。

話は変わります。今の子どもたちは「勝つ」ということに益々多く触れるようになったように思います。どちらを向いても勝つ負ける……。子どもにとっての「勝つ」は、他人との勝負に勝つということで受け取りがちです。スポーツの世界がそのイメージを増幅させます。

(本来のスポーツの勝ち負けはそんなに単純ではないと思います) 子どもは、特に男の子は何でも勝ち負けに繋がります。しかしそうではない「勝つ」に出会うことがあります。相撲でのインタビューの時に、あの貴乃花が「自分の相撲がとれました」と言っていました。あの言葉は他人に勝ったというよりも自分に勝ったことを意味していると感じました。

子どもたちに伝えなければならないこと、己に勝つことが本当の「勝つ」ということなのだ。子どもたちはとかく他人に勝って「ヤッター」と喜びます。自分の努力が報われたことと同時に、相手への感謝の気持ちをあわせて伝えることが大切だと思います。つまり、相手があってこそその勝ち負けであり、終わったあと、相手の気持ちも感じとってあげるような教えが大切だと思います。その積み重ねがやがて「思いやり」という実りを完成させるのではないのでしょうか。

今、悩みを抱えた子どもたちは以前より増しているように感じます。「ギリギリ」のところをなんとか踏ん張っている状態……。勉強のこと、友達のこと、家族のこと……。先日手に入れた雑誌に「なるほど」と思わせる内容のものがありません。

男：なぜ人は悩むのか、悩まない方法はないのか……？

老人：ございます。それもすごく簡単です。

男：簡単？

老人：忘れることです。

男：忘れる？

老人：両方忘れることですよ。世の中はいつも二つのものが対立しています。

この対立した二つのものを忘れることです。たとえば「幸と不幸」そして「貧と富」

「安心」と「不安」「大きい小さい」だの、「有と無」だの、「おいしい・まずい」とかねえ、「損だの得だの」……。それに「生と死」

この二つを比べてどちらかを選ぼうとします。選ぼうとするときに苦や楽というものが、喜びや悲しみというものが生まれてくるんです。自分だの他人だのとねえ……。比較せずに考えずに忘れてしまう。両方忘れたところに自分を立たせてごらんさない。ほほっ、悩みなんてぜーんぜんです。

さて、子どもたち諸君、悩まずに「今」を精一杯に過ごしましょう。